

「ABCP／ABL統計調査」(四半期調査:2012年6月末時点)
集計結果の公表について

一般社団法人 流動化・証券化協議会

当協議会では、分野・テーマ別に専門委員会、小委員会、ワーキング・グループを設置して、資産の流動化・証券化に係る諸課題の協議・検討を行っており、その中の「証券化技術を使ったバンキングワーキング・グループ(WG)」は、ABCP(Asset Backed Commercial Paper)／ABL(Asset Backed Loan)市場の発展を通して、わが国の企業金融の円滑化に資すること等を目的として設置されています。

同WGでは、活動の一環として、ABCP／ABLの市場把握を目的とした「ABCP／ABL統計調査」を実施し、5年分の年間調査と2年分の四半期調査の集計結果を2009年6月22日に公表しました。

本統計調査は、ABCP／ABL市場の実態把握および統計整備の観点から、その後も、四半期ごとに実施しており、今回、2012年6月末時点の四半期調査の集計結果がまとまりましたので公表します。

なお、本統計調査では、集計結果の内容に関する分析コメント(4. 本集計結果に関する分析コメント)を付しています。

◆「ABCP／ABL統計調査」(四半期調査:2012年6月末時点)集計結果

〔回答社数と業種内訳〕

業種	社数
銀行	14社
証券会社	1社
ノンバンク	3社
合計	18社

1. 四半期調査(2012/6末時点)

単位:残高、裏付資産別残高=億円、オリジネーター数=人

	残高			裏付資産別残高			オリジネーター数
	全残高	うちABCP	うちABL	手形債権	売掛債権	長期金銭債権	
2012/6末	65,146	25,871	39,275	10,407	40,330	14,220	1,697
対前年同期比 (2011/6末) 増減率	▲3.2%	1.5%	▲6.0%	1.2%	2.2%	▲17.9%	▲1.8%
対前四半期 (2012/3末) 増減率	▲9.7%	▲11.0%	▲8.8%	▲9.8%	▲11.3%	▲3.1%	▲3.9%

〔注記〕

・一部の回答企業において、「裏付資産別残高」の3類型に該当しない「1年以内償還のその他債権」の残高があるため、「全残高」上は、この数値は反映されていますが、「裏付資産別残高」上は、分類不能のため数値を除外しています。

・「対前年同期比(2011/3末)増減率」および「対前四半期(2011/12末)増減率」は、小数点第二位以下を四捨五入しています。

・2012/3末調査より、オリジネーター数は、従来の「金融法人」、「事業法人」の区別をせず、オリジネーター数の総計の数値を掲載していますので、あらかじめご了承ください。それに伴い、オリジネーター数の対前年同期および対前四半期の増減率は、それぞれ「金融法人」、「事業法人」の総計の数値にて算出しています。

2. 四半期調査(時系列表)

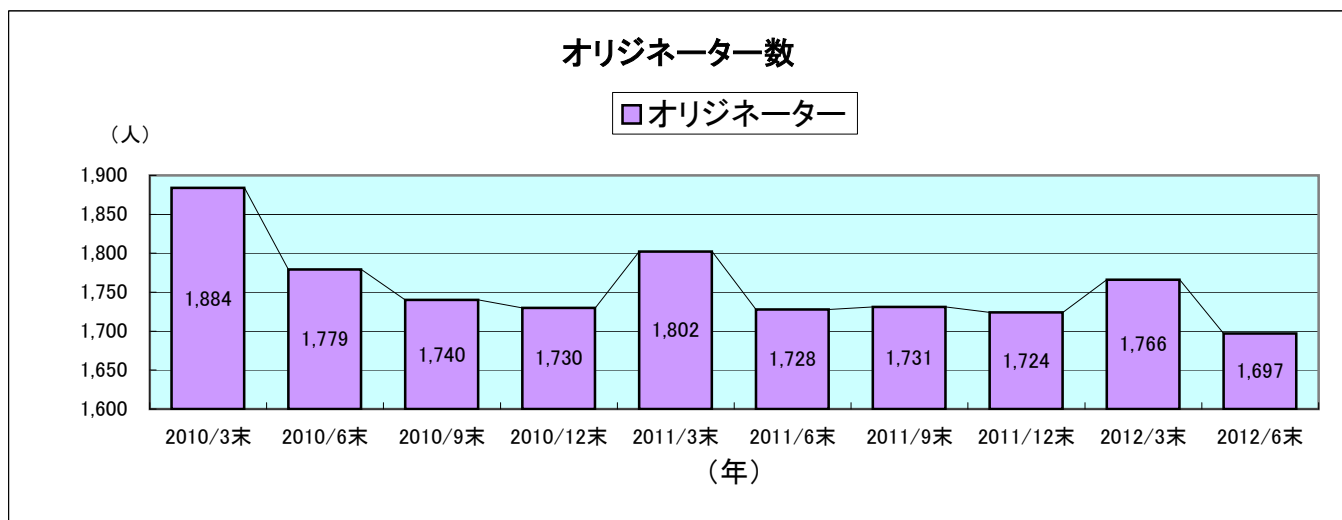
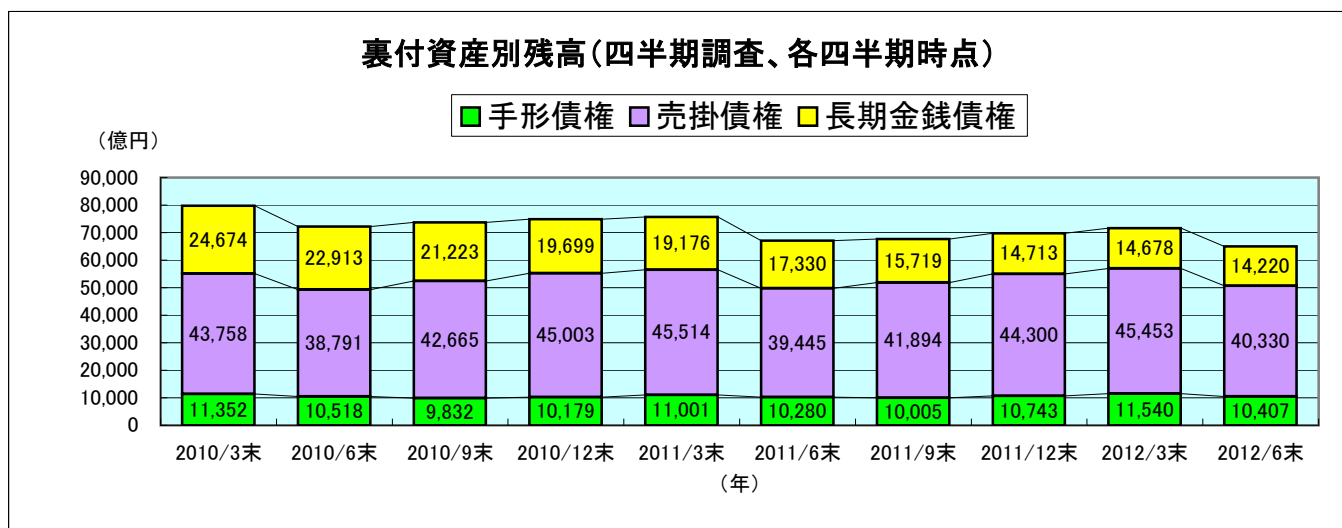
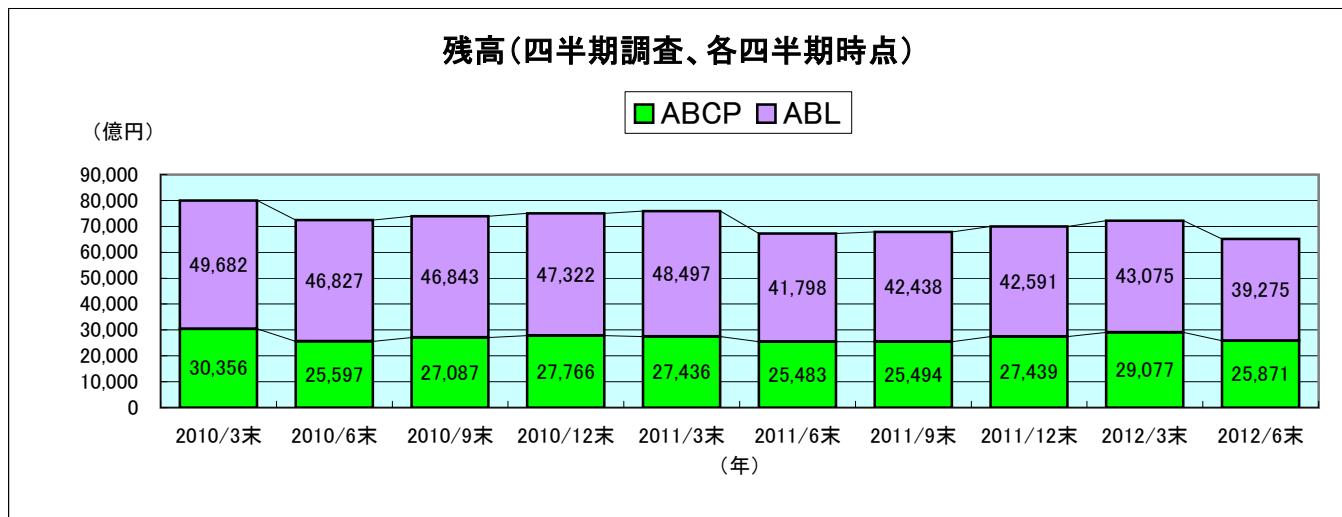
単位:残高、裏付資産別残高=億円、オリジネーター数=人

	残高			裏付資産別残高			オリジネーター数
	全残高	うちABCP	うちABL	手形債権	売掛債権	長期金銭債権	
2012/6末	65,146	25,871	39,275	10,407	40,330	14,220	1,697
2012/3末	72,152	29,077	43,075	11,540	45,453	14,678	1,766
2011/12末	70,029	27,439	42,591	10,743	44,300	14,713	1,724
2011/9末	67,933	25,494	42,438	10,005	41,894	15,719	1,731
2011/6末	67,281	25,483	41,798	10,280	39,445	17,330	1,728
2011/3末	75,933	27,436	48,497	11,001	45,514	19,176	1,802
2010/12末	75,088	27,766	47,322	10,179	45,003	19,699	1,730
2010/9末	73,931	27,087	46,843	9,832	42,665	21,223	1,740
2010/6末	72,424	25,597	46,827	10,518	38,791	22,913	1,779
2010/3末	80,038	30,356	49,682	11,352	43,758	24,674	1,884
2009/12末	80,462	31,167	49,295	10,961	43,306	25,897	1,844
2009/9末	81,063	31,216	49,847	11,461	40,997	28,252	1,939
2009/6末	79,423	30,933	48,488	14,504	36,578	28,209	1,936
2009/3末	95,983	39,496	56,486	19,484	46,176	30,136	2,151
2008/12末	102,652	42,249	60,400	20,646	52,718	29,202	2,166
2008/9末	97,698	41,883	55,815	19,666	53,420	24,565	2,219
2008/6末	93,357	43,465	49,892	19,326	50,264	23,619	2,252
2008/3末	103,259	50,209	53,050	21,293	56,297	25,190	2,498
2007/12末	97,159	46,848	50,311	14,281	44,299	19,294	2,074
2007/9末	101,895	48,984	52,911	14,830	46,260	19,737	2,136
2007/6末	93,931	47,980	45,951	14,175	41,254	18,825	1,995
2007/3末	105,806	57,043	48,764	15,971	47,097	19,966	2,031

【注記】

- ・2007/3末～2007/12末の各数値は、集計不能により一部未回答の企業があるため、参考数値としてご覧下さい。
- ・2007/3末～2007/12末の「全残高」の数値と「裏付資産別残高」の合計数値に大きな開きが見られますが、これは、当該の期間は、残高は回答したものの、裏付資産別残高は集計不能により一部未回答の企業があるためです。
- ・オリジネーター数は、提出金融機関間の重複があると考えられるため、実際のオリジネーター数は本統計調査の社数よりも少ないものと推測されます。
- ・2012/3末調査より、オリジネーター数は、従来の「金融法人」、「事業法人」の区別をせず、オリジネーター数の総計の数値を掲載していますので、あらかじめご了承下さい。それに伴い、過去の調査結果におけるオリジネーター数も、便宜上、「金融法人」および「事業法人」の総計を計算し直した上で記載しています。

3. 四半期調査(時系列表:グラフ)



【注記】
 ・時系列表の各グラフは、掲載スペースの都合上、「2007/3末」～「2009/12末」の数値は割愛していますので、あらかじめご了承下さい。

4. 本集計結果に関する分析コメント

(1) 対前年同期(2011/6末)との比較に関するコメント

〔2011/6末(前年同期)の調達環境〕

- ・CP、社債等の調達マーケットは安定しており、また金融機関の貸出姿勢も積極的であるため、資金調達に困る大企業はほとんど見られなかった。
- ・3/11に発生した東日本大震災後、CP市場や社債市場においてスプレッドが拡大したが、リーマンショックほどの混乱はなかった。
- ・震災被害や減産に伴う資金ニーズはあるものの、前倒しで手元資金を確保すべく、流動化を検討し始めるという動きは見られなかった。

〔2012/6末の調達環境〕

- ・引き続き、CP、社債等の調達マーケットは安定しており、金融機関の貸出姿勢も積極的であるため、流動化・証券化の利用が伸び悩む状況は変わっていない。

〔全残高の比較〕

- ・2012/6末時点のABCP/ABL残高は、前年同期(2011/6末)対比で3.2%の減少となり、残高は再び7兆円を割り込み、本統計データ上の最低値を更新した。
- ・全残高の対前年同期での減少傾向は依然として続いているものの、ABCPについては、前期に引き続き、対前年同期で増加(1.5%増)となり、底打ち感は継続している。
- ・企業買収関連のほか、緩やかながら運転資金ニーズについても回復傾向にあるが、より調達が容易な流動化以外の調達手段(CP・社債・銀行借入)が選択されていることが、伸び悩みの背景にあるものと思われる。

〔裏付資産別残高の比較〕

- ・直近においては国内民間需要に大きな変動は見られないが、裏付資産別でみると、「手形債権」と「売掛債権」を合計した「短期金銭債権」については、前年同期比で2.0%の増加(「手形債権」1.2%増、「売掛債権」2.2%増)と、前期に引き続いて前年同期を上回り、減少傾向に歯止めがかかってきたとの感触を裏付ける結果となった。
- ・「長期金銭債権」については、前年同期比17.9%減少しており、依然減少傾向に歯止めがかからず、本統計データ上の最低値を更新した。全残高の減少は「長期金銭債権」の減少によるものである。
- ・「長期金銭債権」の減少傾向については、2009年3月末をピークとして、ノンバンクセクター等におけるリーマンショック以降の手許資金確保の動きが沈静化し、事業法人同様、調達環境が平常時に戻ったことや、クレジットカード会社の総量規制による市場縮小・与信の厳格化等により、キャッシングの取扱高が減少していること等が背景と考えられる。
- ・また、ノンバンクセクターの調達は銀行借入にシフトしており、相対的に手間のかかる流動化の利用は回復の兆しが見られていない。また、流動化をリーマンショック等の有事に備えた調達手段として捉え、平常時は銀行借入や社債・CPの発行を優先する傾向も見られる。

(2) 対前四半期(2012/3末)との比較に関するコメント

〔全残高との比較〕

- ・流動化実行残高は、前四半期対比では9.7%減少したが、年度末との比較という点では、この減少率は例年とほぼ同様の水準である。(例えば、2011/6末の前四半期対比の残高は11.4%減)。

〔裏付資産別残高の比較〕

- ・裏付資産別でみると、主に事業法人の資金調達環境を反映する「手形債権」と「売掛債権」を合計した「短期金銭債権」の流動化残高は、対前四半期で11.0%の減少となったが、3月末は決算期末を迎える企業が多く、オフバランスを目的とした流動化の取り組みが多いため、この減少率も例年とほぼ同様の水準である。
- ・他方、「長期金銭債権」については、引き続き企業の調達環境が安定していることや、クレジットカード会社の総量規制等の影響を背景に、残高は減少傾向が続いており、対前四半期で3.1%の減少となったが、2010年・2011年と比較すると、その減少ペースは落ち着いてきている。

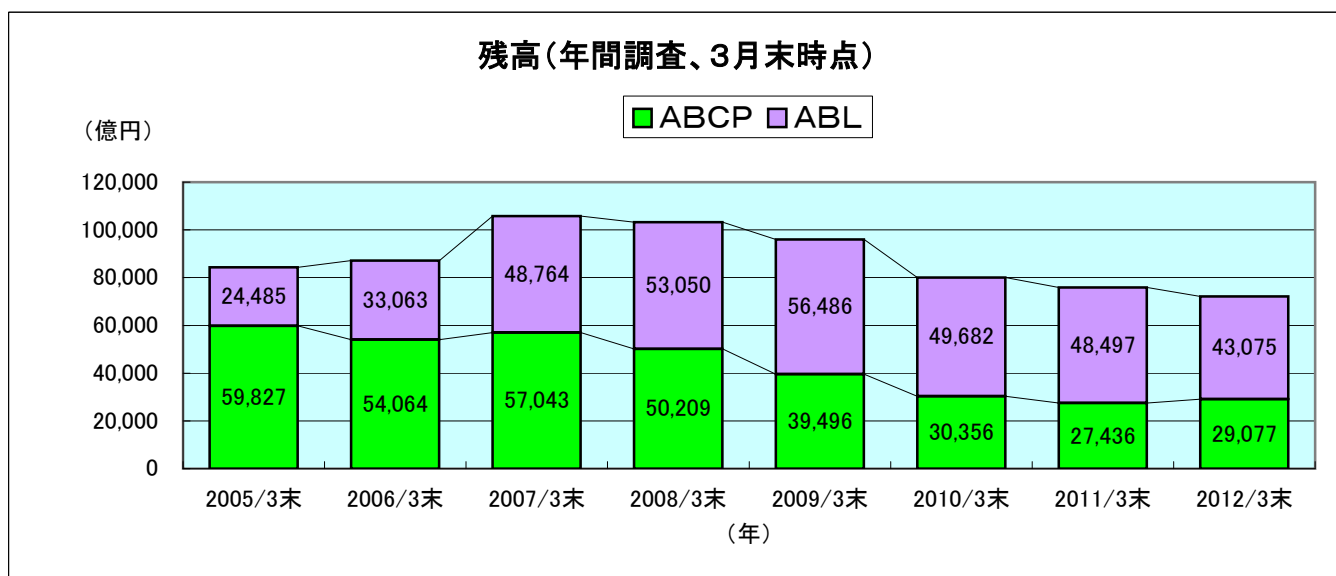
(3)その他

- ・流動化残高は下げ止まりの傾向は見えるものの、全体として目立った変動は見られなかった。
- ・企業側が引き続き資金余剰の状態にあることや、数少ない資金調達の手続きも、より調達が容易なCP・社債・銀行借入が選択されているといった状況には変化がないと考えられる。
- ・M&Aや設備投資といった資金需要はあるものの、国内の運転資金という意味での調達は限定的で、資金調達手段における流動化の位置付けは依然として低いものと思われる。
- ・今後の企業業績に関する外部要因としては、欧州危機等の海外の要因の影響も考えられる。引き続き、企業活動や被災地の復興状況等の注視に加え、海外動向にも留意する必要があると思われる。

(文責：証券化技術を使ったバンキングワーキング・グループ)

《参考》年間調査データ

以下は、2005年以降の3月末時点の残高の推移をグラフ化したものです。



〔注記〕

・2005/3末、2006/3末、2007/3末の各数値は、集計不能により一部未回答の企業があるため、参考数値としてご覧下さい。

ABCP/ABL統計調査要領(四半期調査:2012年6月末分)

一般社団法人 流動化・証券化協議会

1. 調査項目

ABCP (Asset Backed Commercial Paper) およびABL (Asset Backed Loan) の①残高、②裏付資産別残高、③オリジネーター数

2. 調査対象

銀行（都市銀行、信託銀行、地方銀行）、証券会社、ノンバンク（クレジット会社、リース会社）等

3. その他

①期間・頻度

2012/6末時点の四半期調査

②定義

ABCP/ABLの各期末における発行残高（ABCP：CP発行残高。ABL：ローンの供与残高）

③数値の単位

・ ABCP・ABLの残高の数値の単位は「億円」。回答企業において「千万円」の単位を四捨五入して算出。

・ オリジネーターの法人数の単位は「人」

④その他

・ ABCPはスポンサーベース、ABLはローン供与ベース

・ パーティシパントの案件は含めない。

・ 信託ABLは含める（信託ABLのエクスポージャーを「手形債権」、「売掛債権」、「長期金銭債権」に分類）。

※長期金銭債権－1年以内償還の受取債権以外の金銭債権

4. 調査結果の回答期限

2012年8月3日（金）

5. 調査回答票の送付方法

調査回答票は、郵送、電子メールでのファイルの添付またはファクシミリにて流動化・証券化協議会事務局宛に送付。

6. 調査結果のとりまとめ

調査結果は、流動化・証券化協議会事務局が集計・とりまとめを行った。

各社からの調査結果は、本統計調査の集計のみに使用し、個社ベースの調査結果等は一切明らかにしない。

7. 調査結果の公表

とりまとめた調査結果については、流動化・証券化協議会ホームページ (<http://www.sfj.gr.jp/>) 上、その他により公表する。

8. 本調査の今後の実施について

四半期ごとに継続的に調査を実施する。

以 上